unicef

ユニセフと地球の子どもたち⑧

http://www.unicef.or.jp

コロンビア
Republic of Colombia

平和を求める活動

コロンビアでは、さまざまな暴力によって、事件にまきこまれる子どもがたくさんいたんだ。そんな状況を少しでも良くして「自分たちから平和をよびかけよう」と行動を起こした子どもたちがいるんだ。ファルリスさん（十五歳）にお話を聞いてみよう。



平和をねがって、活動する子どもたち　©UNICEF/HQ99-0151/Jeremy　Horner

子どもたちで暴力をなくす運動
投票で「生きる権利」強く訴える

わたしの国では、多くの子どもたちが街の中で暴力にまきこまれていました。子どもがゆうかいされるのは身近なことだったし、家族のだれかをうしなってしまった友だちもたくさんいました。

そんな毎日につかれきっていたわたしたちは、暴力がなく子どもが安心して平和にくらせる国になってほしいとねがい、街中の子どもたちといっしょになって、手づくりのポスターをはったり、ちらしを持ってみんなで行進したりする運動を始めたのです。一九九六年のことでした。

一週間つづいた運動の最後の日、みんなで考えた平和宣言を発表しました。この運動はたくさんの人に注目され、だんだん大きくなっていきました。

運動で権利の大切さを学ぶ

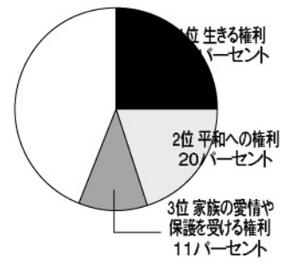
このような活動を通して、わたしたちは子どもにも平和で健康にくらす権利があることを学びました。でも、わたしたちの国ではまだこの権利は十分に守られていませんでした。それで、この権利がしっかり守られるようになる方法をみんなで考えたのです。



それが「子ども投票」でした。「子どもの権利条約」に書かれている権利の中でも、とくに守ってほしいと思う権利を子ども自身が投票して、わたしたちが考えていることを社会にはっきりあらわそうというアイデアです。

子ども投票について、まわりの大人たちからはさまざまな心配や不安が出されました。そこで、わたしたちはユニセフの事務所に相談に行ってみることにしたのです。事務所の人は「子どもに関係のあることは、子どもの意見を聞いて大切にしなければいけないことなんだよ」といってくれました。そして政府も協力してくれるようになり、投票用紙の用意や投票についてつえるためのチラシづくりなど、子ども投票のための準備が始まりました。

「子ども投票」の結果（上位3つ）



一日で二百七十万人が投票

投票の当日は、街中にはられたポスターやテレビがみんなに投票を知らせ、子どもたちが安全に投票に行けるようによびかけました。この一日で、二百七十万人もの子どもたちが投票に参加したのです。そのうち四人にひとりが、十二にわけられた権利のうち、「生きる権利」が一番大切だと考えて投票しました。



子ども投票をきっかけとして、わたしたちの国はずいぶんかわりました。子どもがあらそいにまきこまれることも少なくなりました。これから先、もっともっと子どもの権利が守られる国になっていくことを、わたしはねがっています。

掲載は一週おき。次は二十八日の予定です

もっと知りたい…

子どもの権利条約

世界のすべての子どもは「権利」をもち、「子どもの権利条約」に守られています。

第十二条では「意見を表す権利」をうたっています。子どもは自分に関係のあることについて、自由に自分の意見をあらわす権利を持っています。子どもたちが安心して平和にくらせる国にしてほしい」という意見をうったえるファルリスさんたちの一生懸命な活動をユニセフは理解し、応援しました。その結果、多くの子どもの意見をあらわすための子ども投票を行うことができたのです。

Q 子どもたちが参加した国連会議ってあるの？

A 一九九〇年の「子どものための世界サミット」でむすばれた約束がどれだけ守られたか、これから何をしなくてはならないのかを話し合うために、二〇〇二年五月八日から十日まで、ニューヨークの国連本部で「国連子ども特別総会」が開かれました。

154か国404人がつどい 国連で総会とフォーラム

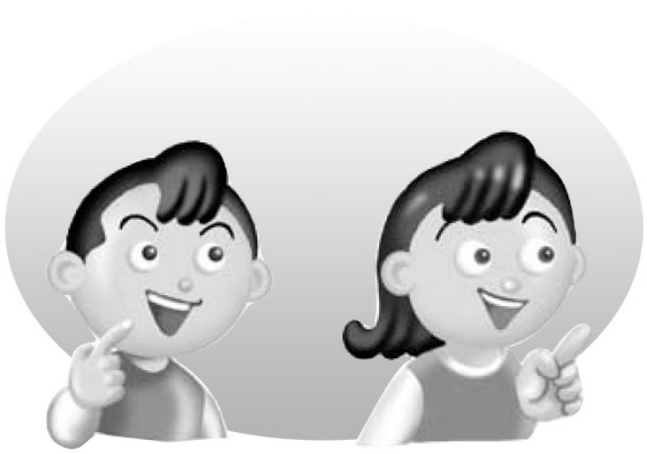
このアピールは、国連子ども特別総会の最終文書「子どもにふさわしい世界」の内容にも大きな影響をあたえました。

擁取（しぼりとること）・虐待、環境、戦争からの保護、子どもの参加、健康、HIV／エイズ、貧困、教育の八つのテーマにわかれ、子どもたちだけで話し合いました。

そして、「わたしたちにふさわしい世界」という共同アピールがまとめられ、ふたりの子どもが演説しました。国連総会で子どもが演説をしたのは、これが初めてでした。

それに先がけて五月五日から七日に開かれた「子どもフォーラム」には、百五十四か国から四百四人の子どもが参加。

子どもたちの国際会議



ユニセフといっしょに

日本ユニセフ協会は年に二回、ユニセフキャラバンキャンペーンで全国各地をおとずれています。ことしの五月と六月には、静岡県、岐阜県、愛知県、北海道を訪問し、小・中学校でユニセフ学習会を開きました。

ネパールの子どもたちの水運びを体験

北海道岩見沢市幌向小学校

デオを見た後、ネパールで水をくむために使われている水がめに実際に水を入れて運んでみたり、蚊によって伝染するマラリアから身を守るための蚊帳を実際に広げてみたりする体験学習をしました。

北海道岩見沢市の幌向小学校では、六年生百三人がユニセフ学習会に参加しました。

水を入れると水がめは約十五キロにもなります。代表で運んでくれた女の子は「五分くらいが限界だと思う」と感想を教えてくれました。



水がめを運ぶ幌向小の六年生